

■（３８）子どもたちが進路を考え始める季節です！

携帯電話がアラーム音を発した。眠い目をこすりながらテレビをつけると、かつて一日に何度も聞いた「緊急地震速報」。盛岡にとっては４月７日以来の震度５弱で、マンションのエレベーターも停止した。階段を駆け下りて、会社に向けて自転車で必死にこいだ。

被災地の子どもたちは落ち着いていた。登校時間にまだ早かったのも幸いしたのだろう。家庭に事前にマニュアルが配られていた学校の児童は、津波注意報が解除されるまで自宅で待機し、解除されてからスクールバスで学校に向かった。混乱は聞こえてこない。

子どものうち、高校３年生はそろそろ、来春の進路を考える時期を迎えた。この震災を経て、高校生の進路希望は変わったのだろうか。小さな子はよく、被災地で奮闘した自衛隊や消防隊員、警察官になりたいと口にする。が、高校生は深刻だ。高校１年になった息子と１９日間の避難所生活を送った高校の国語教諭がつづった日記がある。避難中に声優になりたいという息子の志望を知り、驚きながらも「こんなことになったのだから、もう好きな道を歩めばいい」と応援する。被災地の若者の夢が少しでもかなうことを信じたい。

（山）